

特定課題Ⅴ シカ等野生動物の保護管理

1. 主要施策の取組状況

(1) 奥山域（シカ管理計画における自然植生回復エリア）でのシカ生息密度低減

①重点奥山域におけるシカの管理捕獲

I-（2）-①に記載のとおり

②植生保護柵の効果的な設置と維持管理

I-（3）-①、②、II-（1）-①に記載のとおり

(2) 山地域（シカ管理計画における生息環境管理エリア）での森林整備とシカ管理の連携

①重点シカ管理を統合した森林管理の推進

II-（2）-①に記載のとおり

②森林整備地におけるシカ管理方法の検討

II-（2）-②に記載のとおり

(3) 里山域（シカ管理計画における被害防除対策エリア）での被害対策の推進

①シカの定着の解消のための捕獲

III-（1）-①に記載のとおり

②地域ぐるみの被害対策等の推進

III-（1）-①に記載のとおり

(4) 野生動物の保護管理手法の検討

①持続的な野生動物の保護管理手法の検討

個体数調整、生息環境整備等の事業の効果を把握するため、シカの個体数調査、個体分析などの生息状況等調査やシカによる植生への影響を把握する生息環境調査を実施することで、事業の効果検証や管理計画見直しに必要なシカの生息状況等に関する基礎的なデータが得られた。また、定期的な巡視により生息状況を把握した上での捕獲や、民間事業者を活用した多様な実施者による捕獲の実施等、効率的な捕獲手法の検討を進めた。さらに、森林整備地における効率的な捕獲の検討や森林整備との連携を進めた。

自動撮影カメラによる調査を 12 地点で実施した。シカの生息状況調査として区画法を 32 区画、糞塊法を 45 ルートで実施した。

藤沢翔陵高等学校で開催された、神奈川県高等学校夏山情報交換会において、県内の登山関係部員の生徒・教員に対してダニ媒介感染症について注意喚起を行うとともに、ダニ媒介感染症の予防方法やダニに刺された場合の対処法について解説した。

②ツキノワグマ被害防除対策の検討

ツキノワグマの主要なエサ資源と考えられる堅果類の豊凶調査を丹沢山地の 12 地点で実施した。ブナについては実りがあるものの凶作～並作であり、ミズナラ・コナラにおいても低調な実りとなった。

ツキノワグマについて、県民への注意喚起のため、県内の痕跡、目撃情報を収集し、ホームページでの発信を行った。また、出没が頻発する地域において自動撮影カメラを設置し、動向を監視するとともに、地域に迅速に情報提供した。

2. 主な事業実施位置図

